

1 開会のあいさつ 会長代理 略

2 後期学校評価結果の説明

*前期と異なり、Webでの回答とした。回答数は、前期は約600、後期は約510である。

【学校評価へのご意見など】

<児童と保護者との評価の乖離について>

A氏：保護者と児童との評価に乖離が見られる。そもそも、グランドデザインに示されている数値目標が必要であるかも含め、児童と保護者の数値を統合することなどが必要ではないか？

校長：保護者と児童との評価が乖離する傾向は他校でもよく見られている。よくできていると思う児童であっても、保護者の我が子に対する見方は謙遜されて控え目になりがち。一方、子どもの自己評価は自らに甘くなることもよくある傾向である。立場が違うので、これは仕方のないこと。揃えるには…と考えると、両者の立場を考慮した細かな質問項目をさらに設けていく必要があり、実際には厳しいものと思われる。また、子どもの見えない活動の様子を親が回答するのかという質問をいただくこともあるのだが、保護者によっては家庭で見えている部分で回答する方もいれば、お子さんに学校での様子を聞いて回答する方もいるなど、保護者の中でも捉え方がまちまちの状況である。そのため、これらの数値をどのように受け止めるのかということと、この数値自体が必要なのかということの検討は必要であると考え。しかし、保護者と児童の数値がずれていることに違和感があって揃えなければならないと…ということはないと考える。

教頭：質問項目に対して保護者に戸惑いがあることは確かで、問い方等を改善していく必要がある。

<アンケートの記名・無記名について>

B氏：保護者からの自由記述に、アンケートへの記名、無記名に関する意見があったが、学校の見解は？
無記名にすると「無記名だから何でもいいや」という無責任な回答が増えるのではないか？

教頭：まず、今回からWeb回答としたことで、調査票の回収や集計等の作業がなくなり、担任の負担は大幅に減ったが、保護者からの自由記述も減ってしまった。さて、記名式、無記名式に関する意見については、自由記述への回答として本日配付資料にあるので参照いただきたい。記名としている理由としては、アンケートへの記述内容によっては早急に対応することが必要と判断する必要があること。書き手、読み手ともに回答に責任をもつことがアンケートの基本であることを挙げた。しかし、記名式と無記名式のハイブリッドを考えても良いのではないかと考える。記名式は詳細が分かるが、書きにくいということも事実。一方、無記名式は細かなことは分からないが、雰囲気や流れが分かるという利点がある。無記名の意見に対して一つ一つ答えることは苦しく、紙を用いて実施することは費用的にも厳しい。しかし、Webであれば互いの負担も少なく検討の余地があると思う。ただ、現時点ではアンケートシステムが未熟なため、まだまだ改善の余地があり、それらが整ってから検討したい。

C氏：今回のWebでのアンケートだが、後から気が付いて自由記述を…と思ったら、もう一度最初から全てを入力しなければならなかった。これは結構大変なこと。改善できるか？

教頭：今のところ、私の力が足りない。自由記述のみ別のアンケートにするなどの方法はあると考える。こうやって少しずつ修正していくとよいものになっていくと思う。

校長：4段階評価と自由記述とに分けて、自由記述のみ記名とする方法もあるだろう。

<教科書などの持ち帰りについて>

D氏：持ち帰りについての意見があるのだが、持ち帰らない教科書もあるのだね。

教頭：ものすごく大量の荷物を持って子どもたちが大変…ということがあって、何が何でも持ち帰るのではなく、必要なものだけを持ち帰るという方針が平成30年の夏に示された。そこで、担任が持ち帰るものをコントロールしているため、全ては持ち帰っていないとの回答になっている。

A氏：すると、この表現ではいけない。「全ての教科書を常に持ち帰っていないとすれば…」とあるが、これだと誤解を受ける。「全ての教科書を持ち帰る必要はなく、持ち帰ることが必要な教科書類は担任から指導をしている。」がよいのではないか。

教頭：ご指摘いただきありがたい。修正する。

<登下校の様子について>

A氏：登校班での高学年の早歩きは多くを見受ける。6年生にボランティアの心構えを話す機会があり、最初に話したのが登校班のことだった。しかし、子どもたちは何を問われているかが分からない。そこで、登校班長の役割を演技で考えた。私が低学年役となり、小さな歩みで歩いたのだが、先頭の子はすたすたと行ってしまふ。低学年のことを考えられないということだ。だが、演技を見た子が笑い出すことでおかしいと気が付く…。このような具体的な指導が必要なのではないか。以前、学校にメールしたこともあるが、登校班は縦割り班の際たるもの。しかも毎日活動しているもの。行事であれば、最高学年としてしっかりやるのだろうけれど、毎日となると大人でもぼろが出る。だからこそ、登校班ではあるけれど縦割り班活動だとして、しっかり指導することが必要なのではないか。6年生になってからではなく、5年生になったら始めるとか、6年進級前に何かしらの会をもつとか、ぜひ本腰入れて指導していくことを求めたい。

教頭：登校班については、学びのよい機会とするとのご意見はもっともだと思う。現在は、高学年の子に低学年の子を連れて来てくれて「ありがとうね」という感謝の活動となっているが、もう少し工夫したいと思う。そもそも、登校班がなぜあるのか（*有田小は、創校時に家庭・地域・学校が相談し、子どもたちの安全・安心のために登校班による集団登校を取り入れ、登校班編成等もその精神に基づいて行われている）などから始めることで、いろいろなことを学ぶのではないか…と思うし、工夫のしどころなのだと思う。

A氏：その際には、ぜひ実践を伴う形がよい。頭の中では分かっているけど、きっとできないと思う。今の子どもたちにはそのような遊びの経験などが無いから…。

C氏：しっかりやってくれている子は、きょうだいでなくても下学年の子の長靴まで確認しているという話を聞く。他にも、班長は最後尾なのだから低学年の子がはぐれないように責任もって連れてきている子もいる。ぜひ学校でもほめてくださいと担任の先生に話したら、話してくださったようで、

子どもたちも意識し頑張っていたようだ。メリハリを付けてほめたり、指導したりすることが必要だろう。あとは実践…、班編成をするときにそういうのを入れても良いのかもと思う。

<保護者の意見について>

A氏：あと、もうひとつ。「ダメな事はダメとはっきり指導して頂きたい。勉強だけでなく人間性の成長も指導して頂きたい。叱る事が少な過ぎる！叱る事も教育です。子供に真剣に向き合っていないから叱る事が出来ないのでは？それとも親の顔をうかがって叱らないのですか？」との意見があり、とくに後段への回答として、「PTAでお尋ねになるとよいかと考えます。」とあるが、先生としては「そんなことはない」と言いたいのだろうが、遠慮してPTAを持ち出しているのか？

教頭：「子どもに真剣に向き合っていないから叱る事が出来ないのでは？それとも親の顔をうかがって叱らないのですか？」との意見については正直当惑した。しかし、そのように感じておられることは事実で、なぜそのように見られてしまうのかと考えたとき、「真剣に向き合っていない」と感じさせているのならば我々の力が足りないからなのだろうと。でも、「親の顔をうかがって」は話が違ふと感じた。それは学校に問うべきことなのか？それは、保護者の皆さんがつながって話をしていれば分かることであって、そのつながりをつくる最たるものがPTAだと考えている。そこで、このような回答とさせていただいた。

B氏：これはPTAよりも家庭の問題だ。だめだと叱るのは親がやるべきこと。家庭で教えていなければ学校が言ってもだめだ。それを全部学校のせいだ、PTAがどうのこうのと他人のせいにする事自体がおかしい。PTAではこのような話をする機会はあるか？

C氏：私のところにあがってくることもあり、余程のことは学校にお伝えしている。コロナの影響で参観が少なくなっていることもあり、子どもの話だけで判断しているところはある。懇談会でお話しをしてみてくださいとは伝えているが…。子どもが絶対に正しいかと言えば…難しいところがあるのも事実である。

D氏：「先生が子供の意見を聞こうとしない、子どもの事を無視する事があると子供から意見を聞く。」も同じ。文面を素直に読むならば、親が子どもに一日の様子を事細かく確認しているということで、家庭としては良いのかもしれないが、先生の意見を聞こうとしてはいないように感じる。

E氏：これらの意見は、自分の子のことを考えているのか、それとも、他の子のことを考えているのかで受け止めが変わる。自分の子だとするならば、自分の指導が届いていないという悩みや困り感があるだろう。自分の子だとするならば、このような捉え方でよい。一方、他の子が対象だとするならば、自分の子が意地悪などをされているからしっかり指導を徹底してほしいという願いになるだろう。すると、そのあとの「親の顔をうかがって…」は、相手の親が難しい方で遠慮しているのですかという捉えになるだろう。いずれにしても、学校の捉え方で回答の仕方も大きく変わる。言葉の裏にある「保護者の困り感」を考えなければ。文言だけをストレートに捉えると回答がずれてしまう恐れがある。特別な言葉を使っている時は、特に気を付けなくてはならない。実は、「アンケート」という言葉も一緒。賞品がもらえるアンケートには名前を書くけれど、そうではないアンケートに名前を書くことはない。つまり、保護者のもっている「アンケート」という言葉のイメージと学校の考える「アンケート」という言葉のイメージにずれが生じているということもあると思う。

<アンケートの改善について>

A氏：いじめなどのアンケートを改善する提案があるが、確かにこれは「あり」だ。特に高学年になると周りを気にして書きにくくなると思うからね。

教頭：具体的な手立てを示していただいたことに感謝したい。先程の記名式、無記名式のアンケートとも関連するが、記名式は詳細だが書きづらく、無記名式だと雰囲気は分かるということを考えて、色々な手立て組み合わせていくことが有効と考える。この手立ても取り入れていきたい。

<授業時数等について>

C氏：「他の学校より6限が少ないことをどう思うかなど問うてほしい」との意見もあるが、学校に少しでも長く子どもを預けておきたいという考えならば、これはどうなのかなと思う。確認なのだが、カリキュラム的には問題はないのか？

校長：時数的にはかなりの余裕がある。昨年度、コロナや大雪で有田小学校も休校したが、それでもまだまだ余裕があった。業務改善とも関連付けて、前校長が6限の1コマを減らして放課後を授業準備などに充てるということを学校運営協議会にもお諮りした上で取り入れたと聞いている。朝学習15分を同時に取り入れたので、週としては45分減って75分増えていることになり、逆に多くなってはいるのだが理解をいただけていない状況だと考える。もしくは、子どもに早く帰ってきてほしくないと思われるのではないかなと考える。保護者の立場としては、朝早く学校に行き、日没前に帰ってくるくらいがよいと。

C氏：メディアから離れる時間を少しでも…という意見はある。

校長：子どもを学校で見てほしいという気持ちがあることはよく分かる。中学生になれば部活動があり、本当に日没後に帰ってきて保護者の出勤と退勤とに上手く適合する。しかし、小学生は早く帰ってくるということで保護者の働き方と合っていないと感じていることは感触としてある。

C氏：カリキュラムへの不安があるという声も聞く。有田は他の学校よりも時間が少ないのでは？

教頭：先にもお話したとおり、時間的には足りている。前校長の願いとして、金曜6限は既に子どもたちの限界を超えていて、集中力にも欠け、けがやトラブルも多い。ならば、早く帰してあげよう。他の要因もあるとは思いますが、昨年度に比べてけがやトラブルはかなり減っている。また、他校でも次年度から金曜6限をカットしようとして検討している学校がいくつかあると聞く。これらから判断すると、大きくずれたことはしていないと考える。いずれにしても、丁寧な説明を続けていく必要があると認識している。

E氏：学校評価の中でも、学校運営に関わることは意見を述べやすいということがある。例えば、文化祭のやり方はこれでよいのか…などは、保護者も参加しているので見えやすい。一方、6限が他校に比べて少ない…などというのは、これを例として挙げているのかどうかにもよる。その意見の裏を読まなくてはならない。保護者としても、回答が難しく苦勞しているのではないかと思う。

教頭：保護者の自由記述に対する回答は、紙幅の関係からその全てを掲載することはできない。いくつか絞って学校だよりで回答したいと考え、その候補を示した。ご確認いただきたい。

F氏：これで良いと思う。

【3部会（心・学・体）での検討結果について】

C氏：早寝早起きの習慣について、定着している児童の取組を昼の放送などで紹介するとのこと。保護者はこういうことが知りたい。他の家ではどのようにやっているのかなどを知らせてほしい。

教頭：子どもだけでなく、保護者にも届くようにしてほしいということか？

C氏：そのあたり、PTAこころ育成でやるのか、学校でやるのかを考えてもよい。

A氏：目標値の80%以上ということについて。先生方の分析をみると、概ねできている、達成しているとの捉えだと思う。それはよいのだが、有田の1割は60人。そうすると、各クラスにできない、困っているという子が2～3人はいるということになる。そのとき、数値ではなく一人の子として把握することになる。その子をどうしていくのか？そのような視点を忘れないようにしてほしい。

3 学校運営の報告・計画

【夢・志チャレンジスクール事業、後援会からの支援について】

教頭：夢・志チャレンジスクールについては、2月末までの計画的な執行を進めている。コロナの影響で低学年の妙高雪遊びが中止になった。評価については、先の協議会で指摘いただいたことを基に、評価のあり方を見直している。後援会からは物心両面から支えていただき感謝している。今年度、図書館横に大判の掲示板を設置した。他にも細々としたものを購入させていただいた。また、1階に「しずかスペース」を整備中である。今後、子どもたちがさらに利用できるように整えていく。校長室の来客用イスの破損などもある。有効活用を心掛けたい。

さて、図書館への支援についてお諮りいただきたいことがある。当校には約12000冊の蔵書があり、市から年間予算をいただいているが新刊の購入で尽きてしまう。壊れた本や古い本を差し替えることが難しい。また、基準を満たすために古い本も入れている状況である。図書は市のものであり、本来であれば市からの予算で充当すべきものだが、有田小がいただいている予算はすでに市内トップクラスであり、これ以上は難しい。難しいところなのだが支えていくためのよい方法はないだろうか？

A氏：市からの予算というのは、図書購入のみが該当か？

教頭：そのとおりである。

C氏：図書館には「本の病院コーナー」があるのだが、多くの本が来ている状況。修理がもうできないという本も結構あって、そういうものは学校司書にお願いして廃棄してもらっている。

E氏：正論から言えば、古い本を処分していかないと予算が付かない。しかし、一気に処分すると困るのは教育委員会。元の教育予算がないから。そこで、少しずつ処分して充当していくという戦略的な見通しが必要となるだろう。後援会からの援助については慎重さが必要だ。

教頭：図書館に携わる方々の願いは分かる。しかし、支える方法について名案が浮かばない。このような願いがあるということをご承知おきいただき、よい策があれば、またご教示いただきたい。

【次年度グランドデザインについて】

校長：次年度も教育目標、最重要課題については継続する。成果目標については、80%という数値目標は評価の指標としてのものであって、目指すは100%である。そして、否定的な回答をしている1割の子どもたちをいかに育てていくかが重要だと認識している。80%という指標は、学校評価として

は継続していくけれども、グランドデザインには入れなくても良いと考えるがいかがか？

また、教職員の課題もある。その課題は学級経営と学習指導に尽きる。学級経営については個人の力量差があることは明白だ。学習指導についても、新学習指導要領に示された新しい学び方に対応できていないことも事実。子どもが主役となっている授業を作ることができていない者が多く、「先生が何を教えるか？」から「子どもたちが何を学ぶのか？」にまだまだ踏み切れていない。

i P a dの活用状況にも差がある。若い人が積極的…だということではなく、職員の進取の意欲差によるもの。若くても自分が受けてきた授業のイメージのままに授業をしている傾向もある。それらも考えたグランドデザインにしていかななくてはならない。先生方の課題意識も反映されたものにしていくことで、問題の発見で留まらずに、さらに先に進むために…。文言を整理していきたい。あわせて「保護者・地域の取組」についても確認いただき、ご意見をお聞かせいただきたい。

A氏：ずばり先生方から、「もっと家庭・地域にやって欲しいこと」ということはないのか？

校長：保護者のアンケートを改良し、子どもと同じことを聞くのではなく、示されたグランドデザインに正対した質問をしても良いのかなとは思う。例えば、「子どもが進んで学習する環境を整えます」と記されているが、自らの家庭を4段階で評価するなど。

A氏：グランドデザインに示された子ども、学校、家庭・地域がそれぞれにP D C Aサイクルを回す形になりよいと思われる。

E氏：子どもが学校や保護者の取組を評価するのもよいかもしれない。「我が家は、子どもが進んで学習する環境を整えていると思うか？」「大人は挨拶を返してくれるか？」とかね。そうすると大人と子どものギャップもよく分かるだろう。問い方は難しいが、そのくらいの遊び心があってもよいのかもしれない。

校長：大人が子どもとの向き合い方を評価する材料となるようにしていくことができればよいと思う。

A氏：相互の評価があっても良いのかも。現実を知るツールの一つとなるだろう。

【その他】

B氏：市内の小学校で新型コロナによる休校があったが、そのことによる犯人探しが起きているとの噂を聞く。新型コロナは誰もが罹る可能性のあるものだし、有田小も休校の可能性はあるだろう。その際、犯人探しが起こらないよう指導してほしい。

このほか、次年度の年間行事予定の方針について諮られ、了承された。

4 閉会のあいさつ 校長 略

※本議事録は発言録ではなく、記録者がまとめたものです。ご了承ください。